

研究主題

人との関わりを広げる授業づくり ～集団学習の充実をめざして～

1 主題設定の理由

あすなる分教室では、令和3年度までの研究において、新学習指導要領の改訂のポイントである「主体的・対話的で深い学び」について、児童生徒の実態から「主体的に学ぶ姿」を「人との関わりを広げる姿」として捉え、授業実践を積み重ねてきた。

令和4年度からの2年研究においては、これまでの研究成果を土台に授業実践を行い、全校研究テーマ及びあすなる分教室の児童生徒一人一人の「豊かな学び」にせまっていく。特に集団学習に焦点を当て、人との関わりを広げるための指導の充実をめざし、このテーマを設定した。

2 推進計画

2年次目の研究計画（経過）について示す。

月 日	研究活動	内 容
4月20日	第1回全校研究会	2年次取り組みの確認
5月17日	グループ研究会	1年次目の取り組みの確認・今年度研究方針や内容の検討 アセスメントチェックリスト
6月20日 ～ 23日	グループ研究会	アセスメントチェックリストを用いた児童生徒の発達段階について（共通理解）
7月14日	グループ研究会	夏祭りについて
8月29日	学部研修会	山目・あすなる分教室合同 「音楽療法がもたらす効果と指導の実際」
10月25日	山目校舎研究授業参観	なのはな低学年研究授業参観
10月26日 ～ 11月30日	グループ研究会 研究授業	自立活動 「あすなるタイム あすなるのWA！」 一人一人のねらい等確認・指導案検討・授業→改善授業 授業公開
12月20日	授業研究会	山目・あすなる分教室合同授業研究会
1月16日 ～30日	グループ研究会 研究のまとめ	「一人一人の豊かな学び・あすなる分教室の豊かな学び」確認 学部研究まとめ
2月20日	第2回全校研究会	2年次研究のまとめ

3 研究方針

- ・「人との関わりを広げる授業づくり」の実践と蓄積をとおして研究を進める。
- ・集団学習（自立活動「あすなるタイム」・行事など）を取り上げ、実践の蓄積を図るとともに、見直しを行う。また、授業研究会を行い、より効果的な指導方法等について検討する。
- ・病棟でベッドサイド学習をしている児童生徒と、あすなるホールをつなぐオンライン学習を行い、普段、直接関わって一緒に活動することが少ない児童生徒・職員と交流しながら集団学習に参加できるようにする。今年度は、オンライン学習の時期や内容も吟味して設定し、授業後の児童生徒の様子について共通理解を図る。オンライン授業の記録を蓄積し、より効果的な指導をめざす。

一人一人の豊かな学び（めざす児童生徒像）

<自分の生活にいかす>

- 自分の気持ち、快・不快を表現したり伝えたりする。
- 自分の気持ちに気づき、落ち着いて生活する。
- 病棟で、同室の方や同じ病棟の方たちとの関わりを楽しむ。
- 病棟の医師や看護師、指導室の先生や保育士の先生などと、よりよく関わる。

人との関わりをとおして

- ・受け入れる力（周囲からの関わり、様々な刺激、自分の気持ち）
 - ・発信する力（視線・表情・身体の動き・発声・言葉など）
- を、存分に発揮し、育んでいく姿

- ・周囲からの関わりや刺激を受け入れ、表情や身体の動き等で反応を表出する。
- ・他者との様々な活動経験をとおして、心地よいことや楽しいことを増やす。
- ・自分の気持ちに気づき、気持ちを落ち着かせて生活することができる。
- ・様々な学習活動をとおして、好きなこと、得意なこと、やってみたいことなどを増やす。
- ・活動内容が分かり、見通しをもって取り組もうとする。
- ・仲間の様子に関心を持ち、一緒に活動しようとする。また、楽しみながら一緒に活動することができる。
- ・自分の気持ちを、表情や動作、発声、言葉などで表現したり、伝えたりすることができる。
- ・言葉、身振り、態度から相手の気持ちを感じ取り行動する。
- ・気持ちを落ち着かせて相手の話を聞いたり、自分の気持ちを相手に伝えたりすることができる。

5 1年次目の研究概要

<1年次>

- ・アセスメントチェックリストによる児童生徒の実態把握・共通理解を図る。課題整理シートで「人との関わり」に関係する項目をピックアップし、指導目標をより具体的に立てる。
- ・年間指導計画や年間行事予定から、集団学習として取り組む学習活動・今年度取り上げる授業をピックアップする。また、全校に授業を公開し、授業研究会を行う。
- ・授業においては、個別の指導計画、単元目標、本時の目標、その授業における集団学習でねらいたい姿やつけてほしい力、支援の手立てを具体的に挙げて検討し、職員間で共通理解を図る。
- ・上記の振り返りや評価を行い、成果や課題を次の授業及び次年度にいかす。
- ・病棟でベッドサイド学習をしている児童生徒と、あすなるホールをつなぐオンライン学習の回数を増やし、普段、関わりが少ない児童生徒・職員との交流や、集団学習への参加ができるようにする。授業後の児童生徒の様子について共通理解を図りながら、オンライン授業の記録を蓄積していく。

<成果と課題> (○成果 ●課題)

- アセスメントチェックリストの活用と日々の授業から職員間で児童生徒の実態についての共通理解を図り、教材教具の工夫、場の設定の工夫など、きめ細かく指導・支援にいかすことができた。
- 研究授業・授業研究会をとおして、あすなる分教室について（児童生徒理解・あすなる分教室の指導の実際など）発信することができた。また、研究協議等でいただいた意見を授業にいかすことができた。午後グループの授業の生配信も好評だった。（授業を直接見に行けなくても、臨場感を感じながら参観できた）
- 集団学習として取り上げた行事や学習単元・題材、授業の取り組み方、学習活動の有効性などについて、整理・確認しながらすすめることができた。次年度にいかし、より充実した指導をめざしたい。
- オンライン学習を増やしたことにより、直接会うことが少ない児童生徒も、共に学ぶ仲間であるという意識づけを行うことができた。
- 「あすなるタイム」については、継続して研究の対象とし、授業のもち方や取り組む単元・題材などを吟味しながら実践を積み重ねる。
- 行事や授業の取り組み方など、精選を行ったものに対して、2年次で取り組み、成果と課題を明らかにする。（夏祭り・クリスマス会）

6 2年次目の研究実践

(1) アセスメントチェックリストを用いた児童生徒の発達段階についての実態把握及び共通理解について

あすなる分教室では、「重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト-認知・コミュニケーションを中心に-（広島県立福山特別支援学校）」を利用して児童生徒の実態把握を行っている。一つのシートを3年間使い、長いスパンで児童生徒の発達をみることができるようになっている。年度初めに担任がチェックしたものを職員全員で共通理解し日々の授業へといかしている。

令和2・3年度は、「始まりの会」に焦点を当て、「人との関わりを広げる」授業のあり方について研究した。昨年度からは、その視点を集団学習へと広げ、チェックリストにおいても、集団学習の授業を想定してより具体的な指導目標を立てることとした。

<チェックリスト一部抜粋>

分野	領域	発達段階	領域番号・課題とする項目	具体的な指導目標	支援・留意点
コミュニケーション	人間関係	VII	52 他の子供に関心を示し、自分から関わる	・友達の顔や名前が分かり、教師と一緒に確認しながら物を手渡すことができる。	・写真カードを使い顔と名前を確認する。 ・教師が「○○さんだよ」と、注目できるように声掛けをしたり手で示したりする。 ・ものを友達に手渡すなどのやりとりを活動に取り入れる。

授業を想定しなるべく具体的に記載

(2) 授業実践について

昨年度の課題から、今年度も自立活動「あすなるタイム」を取り上げ、授業研究会を行った。また、同じく課題にあがっていた集団学習「夏祭り」、「クリスマス会」について内容を吟味し、実施した。

<今年度の集団学習>

月	行事・学習活動等	備考
4	入学・進級おめでとう会	・オンライン授業実施
5・6	運動会	・オンライン授業実施 ・運動会当日BS児童生徒直接参加
7・8	○夏祭り	○研究対象 ・清明祭当日BS児童生徒直接参加
9・10 11	清明祭 ◎あすなるタイム	・オンライン授業実施 ・BS児童生徒直接参加 ◎研究授業「あすなるのWA！」
12	○クリスマス会 (NS交流)	・オンライン授業実施
1・2	○あすなるタイム 卒業おめでとう会	○研究対象・オンライン授業予定 ・オンライン授業予定

(◎研究授業 ○研究対象・課題としてあげられていた集団学習)


ア 自立活動「あすなるタイム」

昨年度に引き続き、研究授業に取り上げ、授業提案及び研究会を行った。ライブ配信やビデオを併用して授業を公開したことにより、多くの先生方に見ていただくことができた。また、授業研究会は、山目校舎職員と合同で行うことができた。グループ協議をとおして意見交換を行い、課題について話し合うとともに新たなアイデアを得る貴重な機会となった。

<研究授業と研究協議>

自立活動「あすなるタイム あすなるのWA！」

日時：令和5年11月30日(木)
対象：午後グループ
小学部5年女子1名 6年男子1名
中学部3年男子1名
高等部1年女子1名 2年男子1名
3年女子2名 計7名
場所：あすなる分教室ホール
指導者：小山(T1)、木村(T2)、森下(T3)
吉田(T4)、大和田(T5)、熊谷(T6)
竹田(T7)、八重樫(T8)、菅原(P)



1 単元名「あすなろのWA！」

2 本時のねらい（全体）

- (1) 自分で、または教師と一緒に道具や補助具を持ち、友達に輪を受け渡すことができる。
(知識・技能)
- (2) 言葉や発声、表情、身体の動きなどで、気持ちや思ったことを伝えようとすることができる。
(思考・判断・表現)
- (3) 友達や教師と進んで関わったり、友達からの関わりを受け入れたりして、集団活動を楽しむことができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 本時の展開（※研究部フォルダ 校内研究 あすなろ分教室 参照）

4 評価の観点

(1) 本時の評価

- ア 自分で、または教師と一緒に道具や補助具を持ち、友達に輪を渡すことができていたか。
(知識・技能)
- イ 言葉や発声、表情、身体の動きなどで、気持ちや思ったことを伝えようとするできていたか。
(思考・判断・表現)
- ウ 友達や教師と進んで関わったり、友達からの関わりを受け入れたりして、集団活動を楽しもうとしていたか。
(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 支援の手立ての評価

- ア 自分で、または教師と一緒に道具や補助具を持ち、友達に輪を渡すことができる状況づくりができていたか。
- イ 言葉や発声、表情、身体の動きなどで、気持ちや思ったことを伝えようとする状況づくりができていたか。
- ウ 友達や教師と進んで関わったり、友達からの関わりを受け入れたりして、集団活動を楽しもうとする状況づくりができていたか。

5 評価（よくできた◎ できた○ もう少し△）

本時の評価		支援の手立ての評価	
ア	◎	ア	○
イ	◎	イ	◎
ウ	◎	ウ	◎

※個人の評価については授業研究会資料1 参照

6 研究協議

<授業者から>

- ・あすなろタイムの学習活動をとおして、学級や学部をこえ、友達や教師との関わりを広げたかったため、このゲームを考えた。
- ・毎日の始まりの会の中で、隣の人にマスコットを手渡ししながら呼名を行っている。昨年度までは教師が渡していたが、今年度は、できる生徒が自分から次の人に手渡すようになっていき、今ではどの児童生徒も隣の人に手渡すことが定着した。その動きをゲームに取り入れたかった。「手渡す・受け取る」活動は、必ず人と関わる。毎日取り組んでいるうちに、相手を意識して手渡すなど、動作の上達がみられた。
- ・清明祭で登場した大きな木をシンボルにしてできるものを考えた。秋は木に実がなる時期でもあるので、その様子をイメージしながら楽しくゲームできるように内容を考えた。
- ・単元名は、教具である「輪」、児童生徒の関わりから生まれる「友達の輪」、あすなろ分教室の「和やか」な雰囲気の三つを合わせて「あすなろのWA！」とつけた。
- ・目標は、児童生徒の実態が様々なので幅をもたせた目標になっている。
- ・欠席があり、メンバー変更をしたが、スムーズに取り組むことができた。
- ・全5回の5回目の授業であったが、回数を重ねるごとに木から輪を外したり友達に手渡したりする動きがスムーズになり、友達や教師と進んで関わったり、友達からの関わりを受け入れたりして、活動を楽しんでいる様子もみられるようになった。

<授業について>

支援の手立ての工夫について

■活動の流れの工夫

良かった点

- ・あすなるタイムの始まりの歌がよい。楽しい雰囲気一気に変わる。
- ・BGMを流すことで、ゲーム時間のメリハリが付き、楽しい雰囲気も出ていた。

●教材教具の工夫

良かった点

- ・中が見えるかご、かごを置く高さ、輪を外しやすい針金、輪を数えるときのフックが工夫されており、見やすくよかった。
- ・結果発表も、実際にかごに入った輪を使って得点表示をしており、ホワイトボードに1つずつ掛けることで、視覚的に多い少ないが分かりやすかった。
- ・自在棒や友達に手渡ししやすい輪など、使いやすく分かりやすい工夫がよかった。
- ・かごに鈴が付いており、入ると音が出る工夫がよかった。入ったことが分かる。
- ・自在棒で、車椅子の高さが違っていてもスムーズに輪が受け渡すことができていた。

改善案等

- ・得点表は、チームが左右に分かれていて、輪が下から上に積みあがる形式はどうか。
- ・車椅子とかごの高さがしっかり合うとよりよかった。
- ・自在棒を使用していた児童が輪に直接接触れる場面があってもよかった。
- ・輪に鈴を付けるなど、輪そのものから音が出るようにする、輪が光るなどどうか。
- ・モンキータンバリン（タンバリンの皮のないもの）はどうか。

☆教師の関わりの工夫

良かった点

- ・BGMで活動の切り替え、楽しい雰囲気づくり、教師の声掛けが大きすぎず、でもしっかり盛り上げていた。
- ・友達の活動が分かるように、声掛けだけでなく、児童生徒の体の向きも工夫されていた。
- ・輪が入った時に、「〇〇さん入ったよ～」と、かごの中の鈴を鳴らして他のメンバーにも注目を促す働きかけがよい。
- ・受け渡しの向きを確認したことで、先生たちの動きに迷いがなく、安全にゲームできていた。
- ・結果発表の時に、T1が良かったところをほめていた。
- ・教師の声掛けが温かい、優しい、楽しい雰囲気づくりにつながっていた。前向きな声掛けが多く、楽しい空間をつくる気持ちが伝わってきた。
- ・話し合いの場、かごに入れたときにみんなに伝えていたことなど、友達との関わりを意識できるように工夫されていた。

★場の設定の工夫

良かった点

- ・木から外された輪をチームメンバーが最後まで見守るのがよかった。
- ・かごに入れるとき、体の向きがチームメンバーに向いていてよかった。
- ・2回目に、チームの場所や渡す順番を変えていたところがよかった。

改善案等

- ・木から輪を取るとき、仲間同士受け渡すとき、待っている仲間も見えやすい位置取りができればよい。

<グループ協議1>

「木から輪を取るとき・仲間同士受け渡すとき、待っている仲間も見えやすい位置取りについて」

- ・ホールを横に使い、木を囲んでU字に児童生徒が並び、受け渡してはどうか。
- ・ホールを横に使い、木の前に丸く円状に並んで取り組んではどうか。
- ・初めは仲間を意識できるような位置から相手が見える位置に発展させていくのはどうか。グループごとに木をUの字に囲む → 今回の授業のように木を二本並べ、ハの字に並ぶ。
- ・人数が3人であれば、三角に並びお互いが見えるようにして手渡してはどうか。
- ・ウェーブを描くように並ぶのはどうか。

<グループ協議2>

「集団学習でのICT活用・アイデアについて」

～ 実際に行っている取り組み紹介 ～

・山目校舎

- ① 「どれみタイム」（わかば学級）において、電子黒板にタッチすると音が鳴り、次の画面に変わる教材や、提示した絵をタッチすると曲が流れる教材を作成し、振り返りや感想発表などで使用。また、電子黒板に歌詞・動画（歌と映像）を映す。
- ② 校外学習の事前学習でクイズを出し、電子黒板をタッチして児童生徒が答える。
- ③ 司会活動・帰りの会の振り返りなどでスイッチやiPadを使用。
- ④ フォークダンスやラジオ体操など、スクリーンを見ながら取り組む。
- ⑤ 児童生徒の良い姿・頑張っている姿を写真に撮り、振り返り時に電子黒板に映す。
- ⑥ 録画したものを、すぐにみんなで見ることで、その場でフィードバックができる。場所を移さずにその場で評価できる。
- ⑦ モスバーガーで注文するための練習教材をキーノートで作成。タッチすると音声流れる。
- ⑧ JRで切符を買う練習教材をパワーポイントで作成。

・あすなる分教室

- ① アプリを使っのプリクラごっこ。
- ② すごろくのさいころ振りを、iPadやスイッチを使っで行うことができないか教材研究中。

～ ICTの活用・アイデアについて ～

- ・みんなで取り組めるようなゲームを作成する。（スイカ割りゲームを作成し、iPadを使いみんなで取り組んだことがある）
- ・「あすなるのWA！」や、すごろくの様子をリアルタイムで撮影し、スクリーンに映すことで誰が何をしているのか見ることができる。友達の活動が分かりやすいのではないかな。
- ・自在棒をタッチペンのように使い、電子黒板をタッチできるとよい。
- ・「あすなるのWA！」で、電子黒板にタッチすると音が鳴り、画面上で輪が取れる。輪が取れたら実物を次の人に渡す。
- ・スクリーンに果物を映し、触ると減っていくようにする。
- ・ICTの活用により、場所を取らずに活動できる。

<指導助言>

児童生徒一人一人が自分から主体的に、気持ちを表現し、仲間を意識し協力しながらそれぞれの目標を達成できた授業だった。

「個別最適な学び、協働的な学びの実現」

- ・令和の日本型学校教育 めざす姿4点
- ・求められる教師の姿（資料同上）

上記の観点から今回の授業をみると…

○児童生徒のそれぞれが仲間と協力している⇒児童生徒が主語になっていた。

○実態把握がなされており、一人一人が上手に活動できる手立てが講じられていた⇒個別差別的な学びが実現できていた。

○一人一人が十分に活躍、協力していた⇒協働的な学びが準備されていた。

個別最適な学びができていた⇔協働的な学びが準備されていた

○主体的な取り組みの中で、自分で意識し、自分から動き、仲間を意識し仲間と協力して生きる力を育む授業だった。

…目指す姿が実現できていた。

先生たちは、盛り上げながら、適切な支援をしながら、ともに活動し伴走者として、一人一人の学びを支え、力を引き出していた。

…令和の日本型学校教育が実現できていた。

クリスマス会でも「あすなるのWA！」を発展させたゲームに講師と一緒に取り組んでいた。その中で、輪を持ち替えたり、表情が読み取りづらい児童も楽しんでいるような様子がみられたりした。NSの時以上に発展性がある授業となっており、学びを単発で終わらせず、つなげ、広げ、深め、発展させており、良い実践だった。

自立活動「あすなろタイム」は、「体を動かすゲームや遊びをとおして、人とかかわる力を育てる」ことを目的とし、以下の観点を大切に、単元計画を組んで実施してきた。

- ・児童生徒ができることを生かす。
- ・相手を意識できるような活動・場面設定をする。
- ・同じ題材を繰り返して実施（最低2回）とするが、題材計画、流れ、活動に発展性をもたせる。

また、昨年度の研究において、充実した学習活動を展開するために、次の4つの視点を大切に授業計画を行うことを確認している。

- ・題材選定の吟味
- ・児童生徒にとって分かりやすいルール工夫
- ・繰り返しの活動
- ・支援の工夫

今回の研究授業では、これらの観点をしっかりと抑え、児童生徒の課題や取り組みの様子を職員間で共通理解しながら授業改善を繰り返した。その結果、児童生徒一人一人が自分の力を発揮し、友達と関わりながら生き生きと活動に取り組む様子がたくさんみられたと考える。今後もこれらの観点を大切に、授業づくりを行っていきたい。

イ 夏祭り

昨年度の研究において、人との関わりを広げることができる有効な学習単元の一つだと確認した夏祭りであるが、児童生徒が友達と一体感をもちながら、一つ一つの活動により主体的に取り組むための内容や活動量の精選が課題として挙げられていた。そこで、これまで二日間開催・盛り沢山な内容で行われていた夏祭りを、以下のように見直した。

- (ア) 学級や学部で担当していた出店を、午前・午後グループで二つに絞る。
- (イ) 準備はみんなで協力しながら行う。
- (ウ) 出店紹介はビデオ撮影し、午前・午後グループで見合う。
- (エ) 夏祭りは一日開催として、それぞれが準備した出店ブースを友達同士で回り、関わり合いながら楽しむ。
- (オ) 昨年度の夏祭りで作ったものも使用し、夏祭りの雰囲気盛り上げる。

午前・午後グループで出店を二つにしたことから、準備段階から学部を超えて友達と関わり、協力して準備することができた。また、出店活動を精選したことから、当日の活動に余裕ができ、じっくりと出店を回ったり、友達同士、関わり合いながら活動を楽しんだりする様子がみられた。一日開催であっても、夏祭りの雰囲気を味わい、十分に活動することができた。



午前グループ：「くじびきや」



午後グループ：「まとあてや」



ウ クリスマス会

今年度は、これまで行事として取り組んできたクリスマス会を、NS交流と合わせて実施することとした。外国人講師の先生との学習は2年目ということもあり、児童生徒も先生に慣れ、一緒に活動することを楽しみにしていた。

ゲームでは、「あすなるのWA!」を「クリスマスのWA!」に発展させて行った。クリスマスリースに見立てた輪を渡し合い、講師が大きな木に輪を掛けていき、最後に星を飾ってツリーを完成させると、拍手したり笑顔を見せたりする生徒もいた。授業はオンラインでホールと病室をつなぎ、ベッドサイドの生徒も一緒に参加した。にぎやかなホールの様子に反応しながら、みんなの歌に合わせて楽器を鳴らしたり、ゲームのタイムキーパーを行ったりして、会場と一体感をもって集団学習に参加することができた。



クリスマス会については、今後も単独行事ではなく、NS交流やあすなるタイムとタイアップし、日頃の授業の成果が発揮できるような内容にしていくことを確認した。

(3) オンライン学習について

あすなる分教室では、令和3年度から、学校と病室をつないでのオンライン学習に取り組み始めた。令和4年度は、オンライン学習の回数を増やし、普段、関わることの少ない友達や教師と一緒に、行事や音楽活動、ゲームなどの集団学習を行うことで、様々な経験や活動の幅を広げることができた。

今年度は小学部・中学部各1名の児童生徒が、病室でベッドサイド学習をしている。主治医から許可をいただき、行事などの集団学習の際に学校に登校し、友達と一緒に活動に参加できることもあるが、そのときの体調などにより難しいこともある。そこで、学習計画に沿って、どの内容をオンラインで行えばより指導の効果が高まるか、また、友達と一体感を感じながら活動するにはどうしたらよいかなどを吟味して実施した。

運動会や清明祭の取り組みでは、ベッドサイド学習で教師と一緒に準備や練習を重ね、オンラインで仲間とともに本番に向けての練習を行ったことで、当日は教師と一緒に堂々と自分の役割を果たすことができた。NS交流や音楽療法では、講師の先生の声掛けや、ホールの友達の声、活動の様子に耳を傾け、ベッドサイド学習とは異なる雰囲気にながら参加することができた。

オンライン学習では、画面越しにお互いが何をしているのか分かりやすいこと、ゲームなど動きのある活動を共に行う場合、病室の限られたスペースで同じようにできることが求められる。これまでの取り組みをもとに改善を図りながら、活動内容や教材教具、ルールなどを工夫し、ホール・ベッドサイド双方の児童生徒にとって有意義な学習ができるよう、これからも取り組んでいきたい。

<実施したオンライン学習>

月	行事・学習活動等	備考
4	入学・進級おめでとう会	
6	運動会① NS交流①	開閉会式練習
9	前期終業式	
10	清明祭	通し練習
11	音楽療法①・②	今年度は2回とも実施
12	NS交流②(クリスマス会)	

2	あすなるタイム 「すごろくをしよう②」 卒業おめでとう会	・オンライン授業予定 ・オンライン授業予定
---	------------------------------------	--------------------------

7 実践のまとめ

(1) 今年度の成果と課題 (○成果 ●課題)

- 「人との関わり」をテーマに、具体的な目標を立て、支援の手立てを細かく講じながら学習を積み重ねたことで、アセスメントチェックリストのコミュニケーションの分野で、一人一人伸びがみられた。
- 研究授業では、直接参加・ライブ配信・ビデオ等で授業を公開し、たくさんの先生方に見てもらい意見をいただくことができた。また、山目校舎と合同の授業研究会を行うことで、改善案や新たなアイデアを得ることができた。
- 「あすなるタイム」では、「始まりの会」で毎日取り組んでいる呼名での人形渡し（当番に呼名されたあと、人形を隣の人に手渡しする活動）をいかした単元設定を行った。日々の授業の積み重ねから、児童生徒同士、関わりを意識する場面が増えていき「あすなるのWA!」の活動を繰り返したことで、友達を見る、友達を気にかける、配慮して優しく関わろうとする姿もみられるようになった。
- 「あすなるタイム」においては、これまで大切にしてきた観点に、4つの視点を新たに加え、授業づくりを行っていくことを確認した。
- オンライン学習の取り組みについては、毎年改善を図りながら実績を蓄積してきたことで成果が上がってきている。ホールとベッドサイドの児童生徒が、共に学ぶ仲間であるという意識やつながりをもちながら有意義な学習ができるように、授業設定や内容、支援のあり方などを検討しながら進めていく。
- 「あすなるタイム」をはじめ、研究対象となる集団学習においてポイントにした「支援の手立ての工夫」について、その有効性を確認する。

(2) 終わりに

令和4年度からの2年研究では、学校教育目標に掲げられている「一人一人の豊かな学び」について、集団学習を中心とした取り組みから共通理解を図り、確認することができた。同時に、あすなる分教室のめざす「豊かな学び」の姿についても導き出すことができた。また、これまで行ってきた集団学習について、単元の有効性を確認したり、よりよい指導を求めて内容を整理・精選したりすることができた。

あすなる分教室は、「人との関わり」を育むことに重点をおいている。「主体的に学ぶ姿＝人との関わりを広げる姿」と捉え、限られた学習時間の中で、児童生徒が自分の力を最大限に発揮しながら、楽しい学校生活を送れるように職員一丸となって取り組んでいる。

あすなる分教室の児童生徒が、「人との関わりをとおして、受け入れる力・発信する力」を存分に発揮し、育みながら「自分の生活にいかす力」を培っていけるような指導・支援をこれからも行っていきたい。

資料

広島県立福山特別支援学校 重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト